

報道関係者各位

2019 年 8 月 9 日

全国産業安全衛生大会 in 京都

(令和元年 10 月 23 日～25 日)

労働安全衛生の今と未来を体感しよう！

大学・短期大学生・専門学校生を無料招待

中央労働災害防止協会（中災防）は、令和元年10月23日（水）～25日（金）の3日間、京都市で開催する「**第78回 全国産業安全衛生大会 in 京都**」（京都大会：別添1）への参加を希望する大学生・短期大学生・専門学校生を無料招待します。

全国産業安全衛生大会は、企業の経営者や安全衛生担当者、産業保健スタッフ、教育・自治体関係者などが、労働災害防止や健康づくり、防災などに関する対策・活動の成果発表や情報発信を通じて相互研鑽し、知見を高め合う場として、毎年1回開催しているイベントで、今回で78回目となります（別添2参照）。大学生等の無料招待は、今回の京都大会が初めての試みとなります。

京都では、昭和13年に前身の「全国産業安全大会」（第7回）を開催して以来、50年前（昭和44年）に「安全」と「労働衛生」を一本化した「全国産業安全衛生大会」となっからは初の開催となります。会期中の参加者は約11,000人を見込んでいます。

大会では、企業による事例発表に加え、ファッションデザイナーのコシノジュンコ氏や五輪メダリストの太田雄貴氏など著名人の講演、各界有識者による講演、産官学連携によるパネル討論やシンポジウムなど、過去最多の15分科会・約300のプログラムを展開します。京都大会は、京都大学名誉教授、京都工芸繊維大学学長、京都精華大学学長をはじめ、大学関係者の講演が特に充実しています。

中災防では、若い世代が学術分野の安全・健康に関する最新の知見を学ぶとともに、産業界の労働安全衛生の取り組みの「今と未来」をじかに感じる機会を提供することで、わが国の労働安全衛生水準の向上、安全文化の醸成に貢献できればと考えています。

学生用の参加申し込みの詳細は以下のとおりです。

第78回全国産業安全衛生大会（10月23～25日）

【対象者】 大学・短期大学・専門学校に在籍する学生

【申込方法】 中災防ホームページ内の「全国産業安全衛生大会サイト」

(<https://www.jisha.or.jp/taikai/>) の「大会参加申し込みはこちら」の画面から学生用参加申込書をダウンロードして、学生証(写し)とともに、申込書1枚につき1名でファクスか郵送で申し込んでください。

【申込先】 中央労働災害防止協会 教育推進部 イベント事業課

FAX: 03 (5443) 1019

郵 送: 〒108-0014 東京都港区芝 5-35-2

【申込締切】 令和元年10月16日（水）

※申し込み後の流れなど詳細については、大会サイトに掲載

(裏面へ続く)

なお、大会と同時開催で、国内最大の保護具・機器の展示会「緑十字展 2019」（入場無料）を京都パルスプラザ（京都市伏見区）で行います。

VR（仮想現実）を活用した安全教育システム、保護具の体験道場、防災・温暖化対策の技術・機器、健康支援サービスなど、160を超える企業・団体が出展します。また特別企画として、「舞妓さんによる舞の披露と記念撮影コーナー」（開会式と開会式後）、京都労働局による「ゼロ災3か月運動」の歴史と地元企業の取り組みなどの紹介、(株)NHKテクノロジーズ、人と防災未来センターの協力による「防災展」の設置なども予定しています。

学生の皆さんはもちろん、広く地域の方々にも、労働災害防止や防災の先進的な取り組み、危険から身を守り安全で健康に働ける職場をつくるための技術・工夫などを体感していただける場になるよう、運営準備を進めます。

※この資料は、京都府政記者クラブ、京都経済記者クラブ、京都大学記者クラブ、厚生労働記者会、労政記者クラブ、厚生日比谷クラブ、鉄鋼研究会に同時配布しています。

中央労働災害防止協会

教育推進部長 早木 武夫

【担 当】教育推進部事業サービス推進センター イベント事業課
大会担当

（電話）03-3452-6402

【照会・取材連絡先】

総務部広報課（高橋、道野、池田）

（電話）03-3452-6542



中災防は、昭和39年に労働災害防止団体に法に基づき設立された団体で、事業主の自主的な労働災害防止活動を支援するため、企業の人材の育成、安全衛生の専門技術の提供および最新安全衛生情報の提供など、安全衛生に関する総合的な事業を行っています。

会 長：中西 宏明（なかにし・ひろあき：日本経済団体連合会会長）

理事長：八牧 暢行（やまき・のぶゆき）

中災防 本部所在地：東京都港区芝5-35-2 安全衛生総合会館

第78回（2019年度）全国産業安全衛生大会 開催概要

- 1 目 的 全国各事業場における産業安全、労働衛生の関係者が一堂に集い、労働安全衛生にかかる功績者に対する表彰等を行う式典や事業場からの研究発表、最新の安全衛生の課題に対応した講演等を通じて産業安全、労働衛生の推進向上を図り、もって労働災害防止に寄与する。
- 2 大会テーマ 平安の思いを込めた京の地で 新たに誓う 安全と健康
- 3 主 催 中央労働災害防止協会
- 4 協 力 等
 - 協 力 公益社団法人 京都労働基準協会
 - 協 賛 建設業労働災害防止協会
 - 陸上貨物運送事業労働災害防止協会
 - 港湾貨物運送事業労働災害防止協会
 - 林業・木材製造業労働災害防止協会
 - 各都道府県労働基準協会（連合会）
 - 後 援 厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、スポーツ庁、警察庁、ILO駐日事務所、京都府、京都市、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、日本労働組合総連合会、公益社団法人関西経済連合会、京都経営者協会、京都商工会議所、京都府商工会議所連合会、京都府商工会連合会、京都府中小企業団体中央会、一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会、公益社団法人日本保安用品協会、日本労働組合総連合会京都府連合会、京都地方労働組合総評議会、一般社団法人京都府医師会、京都府社会保険労務士会（順不同）
- 5 開 催 地 京都府京都市
- 6 会 期 2019年10月23日（水）～25日（金）＜3日間＞
- 7 参加対象者 主に全国各事業場・団体などの産業安全、労働衛生の関係者
- 8 参加予定数 約11,000人
- 9 参 加 費 一般 13,200円（賛助会員は6,600円）※いずれも10%消費税込
※京都大会では大学生・短期大学生・専門学校生を無料招待
- 10 会 場 総合集会（2019年10月23日（水））
みやこめっせ（京都市左京区）
分科会（2019年10月24日（木）、25日（金））
みやこめっせ、メルパルク京都、京都経済センター、カラスマプラザ21、
京都パルスプラザ、京都テルサ

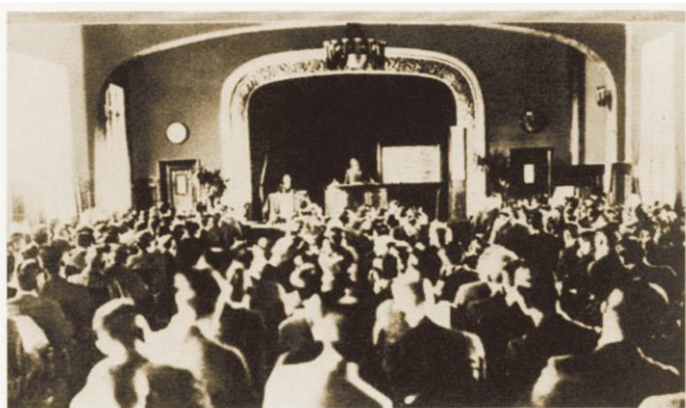
全国産業安全衛生大会の 誕生とあゆみ

◆ 昭和7年、第1回『全国産業安全大会』 東京で開催

第1回の全国産業安全大会が、(財)産業福利協会の主催により、1932(昭和7)年11月21日から3日間、東京・神田の学士会館で開催され、300人を超える人たちであふれた。

安全運動の先駆者・蒲生俊文の司会のもと、“同志が集う”会場には熱気があふれ、互いに手を取り合って安全運動を推進していこうとする連帯ムードが高まった。

大会の目的の一つである「連帯」は十分に果たされたが、それにも増して注目されるのは、その後ひたむきに継続されることとなる安全対策への「科学の導入」といえるものであった。



盛況な第1回全国産業安全大会（昭和7年11月 東京・学士会館）

それは、「人間とは何か」にメスを入れ、人間の持つ弱点をカバーする方策に取組もうとする科学的姿勢が、企業の中に生まれつつあることを示したものであった。

◆ 昭和29年、第1回『全国労働衛生大会』 東京で開催

1954(昭和29)年10月14、15日の2日間、東京の読売ホールにおいて、全国から1,300人の主に労働衛生管理に携わる関係者が集い、第1回の全国労働衛生大会が開催された。

北は富士製鉄(株)室蘭製鉄所から南は旭化成(株)延岡工場まで、いずれも衛生管理の進んだ事業場からの発表であった。結核、鉛中毒、けい肺などの予防に関する報告が目立った。

◆ 昭和44年に『安全大会』と『労働衛生大会』が一本化されて『全国産業安全衛生大会』に

1967(昭和42)年の東京大会は、労働基準法施行20周年記念大会として初めて安全、衛生両大会の合同開催となり、参加者は13,000人を数えた。



全国産業安全衛生大会・総合集会

翌々年の 1969 年(昭和 44 年)には、現在の「全国産業安全衛生大会」の原型が生まれ、内容を拡充するとともに、「緑十字展」を盛大に開催することとなった。



総合集会・災害ゼロへの誓い

「緑十字展」も京都で併催

◆ 緑十字展とは

安全衛生保護具、機械の本質安全化にかかる機器、職場環境・作業方法の改善機器、健康増進機器等の展示や装着体験セミナー等を通じて、職場の安全衛生を普及・促進し、労働災害の防止、働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境づくりに関する安全と健康の最新情報と技術を紹介する安全衛生の展示会である。



緑十字展 2018in 横浜 (2018 年・横浜)

◆ 第 1 回緑十字展は昭和 43 年、安全会館（東京都港区）で

1968（昭和 43）年 9 月 30 日から 10 月 7 日にかけて、東京都港区の安全会館および同会館前広場において、全国労働衛生週間にあわせて開催された。

翌 1969（昭和 44）年に名古屋市で開催された全国産業安全衛生大会から、毎年同時開催するようになり、現在に至っている。



墜落衝撃実験



安全衛生保護具体験道場

参考資料：「安全衛生運動史・安全専一から 100 年」（中災防発行）
「日本労働災害推進会のあゆみ」（日本労働災害推進会発行）